

超高齢化社会でAFを取り巻く疾患

～がん・認知症～

神澤 孝夫^{1) 2)}

1) 群馬県認知症疾患医療センター 美原記念病院

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門

人口の高齢化により、癌、脳卒中、心房細動を有する患者は今後も増加すると見込まれるが、近年、いずれも併存する患者に臨床の現場で遭遇する。これらに対して、従来通り診療科ごとの垣根があっては診療を行うことは不可能になっている。たとえば、心房細動の患者は今後高齢化に伴い増加するが、同時に癌、認知症を有する患者は増加傾向を示しており、これは脳塞栓症患者において、他病型よりも多い傾向にある（stroke 2016 シンポジウム抗凝固療法の新展開（理論と実践に基づいた DOAC 選択発表）。また、最近の報告では、心房細動は、脳血管性認知症の危険因子だけでなく、アルツハイマー型認知症の危険因子であることが示されている。ここれらに求められるのは、「トータルマネジメント」であると考えられる。